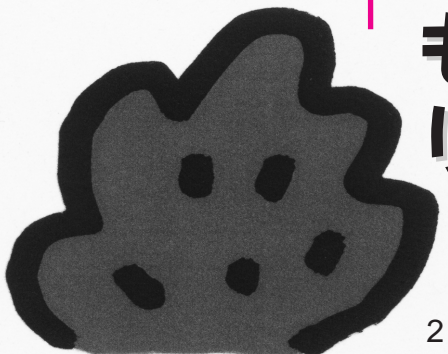


# 大きく育てみのかも文化の

もり



「森」のイメージキャラクター

昨年10月に開館したみのかも文化の森は、開館以来、市内はもとより県内外から12万人もの来館者がありました。従来型の博物館などと違い、ミュージアムと教育センターの機能を合わせ持つ新しいかたちの施設としてスタートしました。今、みのかも文化の森には、内外から熱い視線が注がれています。今回は、そのみのかも文化の森の1年にスポットを当ててみました。

## みのかも文化の森 3つのキーワード



その1 自然との共存  
みのかも文化の森は、約9ヘクタールの広大な自然の中であり、周辺を散策すると四季を通じていろんな植物や小鳥などに会えます。こうした豊かな自然環境の中にある、展示棟を核とした市民ミュージアムや生活体験館などの景観はこの森と調和しており、訪

れた誰もが自然にくつろげる場所となっています。生活体験館から時折見かける煙は、昭和20年代から30年代この家にもあったクドで薪を燃やしたときに立ち上るものです。ここでは、昔にタイムスリップしてしまいます。特に、お孫さんに連れられて訪れた年輩の人たちが、ちよつとした先生気分であった時のようすなど語られる光景がいつでも見受けられます。



その2 学校教育との共存  
ふだん、児童生徒は、学校で先生から教科書や各種教材などにより学んでいます。しかし、時代の変化に伴い、来年度から「総合的な学習の時間」がすべての小中学校・高等学校で実施されることもあり、住んでいる地域へ出かけたり、地域から講師を学校へ招いて勉強したりすることが行われるようになってきました。そこで、地域の自然や文化・歴史に関する資料が収集・展示され、さらに学芸員の専門的な知識や技能を生かすことにより幅広い体験学習ができる場所として「森の学校」がスタートしました。

ここには、市内の児童生徒が入れ替わり立ち替わり、ほぼ毎日のように学習に訪れてい

ます。ここで学ぶことは、野外フィールドを中心とした自然科学だけでなく、敷地内にある尾崎遺跡などを活用した歴史学習、森の恵みを生かした「木の葉の血作り」など図工・美術の分野まで各種にわたり、目と耳、手と足を動かし、体全体で学習しています。また、教育センターでは、教職員を中心とした研修や、学校・家庭・社会に適應することが難しいお子さんについての教育相談なども行っています。



その3 市民参加  
ここでは、各種サークル活動や展覧会などの開催場所を提供することにより、新しい文化の創造を目指しています。親子や気の合う仲間同士などで「みのかも文化の森」を楽しんでみてください。

このみのかも文化の森の運営面を支えているのが、市民ボランティアのみなさんです。来館者に展示品のガイドをする展示ボランティアや児童生徒たちの学習を支援する学習支援ボランティアなど5分野で100人以上の人たちが、円滑な運営ができるよう支えてくれています。

なお、芝生広場にあるカリヨンは、仲間うちでのミニコンサートやシビルウェディングにご利用できます。まさに、市民参加型の施設となっています。

この3つのキーワードが、うまくかみ合って新しい時代にあった施設となりました。

文化の森で行われる各種の講座は、どの講座も参加者でいっぱいです。

文化の森を活用した  
学習体験の広がりを  
S・Sさん(展示ボランティア)

開館当初から、展示ボランティアをしています。ボランティアをしていて気が付いたことは、お子さんがまず学校の学習活動で訪れたのをきっかけにして、おじいちゃんやおばあちゃんを連れて再び来館され、次はご両親と来館されるケースが見受けられます。きっと、ご家庭で、この文化の森とお話しているような会話が弾んでいるのでしょう。このような微笑ましい光景を見るたびに、うれしくなります。

常設展示室の植物などの展示標本を見て、文化の森周辺を散策すると、いろんな植物を知ることができます。こうした文化の森を活用した学習と実地体験がもっと広がるといいですね。



ほらあ、こんなに大きなドングリ



一人でも多くの人に、「昔」の体験を  
大野公夫さん(生活体験ボランティア)

昨年の開館時から、生活体験ボランティアとして手伝っています。手伝いといっても、昔、わたしたちがおやじたちから学んだことを参加者に教えるだけなのです。それも、「縄ない」や「ムシロ作り」などは、日ごろの生活の中で覚えたことばかりです。参加される人が、ほとんど初めての人ばかりです。

こうした昔のことを体験することは、ここでしかできなくなりました。

一人でも多くの人に昔の生活を体験してほしいですね。

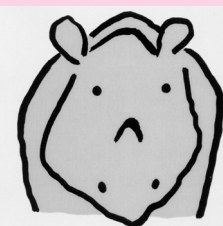
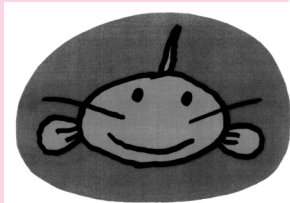


文化の森には、笑顔が  
森で出会った



高島 純さん(絵本作家)  
昨年好評だった「高島純とクリスマスカードをつくる」に続き、今年も12月16日(日)に「高島純と絵本をつくる」を開催予定。詳細は、12/1号でお知らせします。

「文化の森のイメージキャラクターを作るにあたっては、造形的にしっかりしたものを作りたいかったですね。文化の森のイメージとして、「ほっとした暖かさ」を大切にしました。そのために、線の太さや全体のバランスを取るのに気をつかいました。ポスターや案内板でこのイメージキャラクターを見れば、文化の森とわかるようにしたつもりです。ここで開催しました昨年のクリスマスカードづくりに多くの人に来ていただきましたが、こうした新しい市民参加型のミュージアムが、地方都市にも必要だと思えます。」



カニサイ  
ネゴギギ

イメージキャラクターには、シンプルさの中にほっとした暖かさを  
みのかも文化の森には、「カニサイ」、「ネゴギギ」そして「木の葉」の3種類のイメージキャラクターがあります。どのキャラクターも、来館者を暖かく迎えてくれます。そこで、制作者で絵本作家の高島 純さんにお話を聞きました。

ゆっくりと時間が過ぎせるのが好きです  
福田孝雄・茉奈さん  
親子(加茂野町)



もう、4~5回来ています。落ちついて、時間が過ぎせるのがいいですね。常設展示室では、ゲーム感覚で美濃加茂の歴史がわかるので、子どもも楽しく過ごしています。



ボク、おにいちゃんにも拾ってこよう

似合います  
すてきな 笑顔



母が懐かしがりました  
木下 遵子さん(可児市)  
八木てる子さん(犬山市)

木下さん(娘:写真左)ときどき、ぶらっと来ていますね。この前来たとき、今日のこの講座(四季を食べる講座「栗おこわ」)があることを知り、ぜひ母と参加したくて来ました。私は、クドの記憶がありませんが、母は懐かしがっています。

八木さん(母:写真右)クドは、昔の家にはどこでもありましたが、今はありません。今日、この講座に参加させていただき昔に帰ったようですね。クドでご飯を炊いていて煙が目にしみ痛くなりましたが、この煙が昔を思い出させてくれて懐かしかったです。ここは、時がゆっくりと流れるようで何度でも来てみたいですね。

カニサイが好きです  
まみうだ  
大豆田耕平さん一家  
(森山町)



子どもが、展示してあるカニサイが好きで何回も来ています。伝承遊びでは、竹馬作りにも参加しました。ふつう、公共施設はいろんな決まりがあって使いにくいですが、ここは入りやすいし楽しい時間が過ごせます。

ただ、子どもが展示物を見るには少し目線が高いのが気になります。それから、展望台には、子ども用に踏み台があるとありがたいですね。



きれいなドングリこまが、できるかな

仕事の関係で、知りました  
大竹安行、文子さん夫妻(稲沢市)

私(文子さん)が、仕事の関係でここを知りました。今日で、3回目になりますか。私の地元の稲沢には美術館はありますが、こうした施設は残念ながらありません。いいところですね。

ところで、最初に来たとき間違えて、「健康の森」まで、行ってしまいました。これだけの施設だと県外からもたくさんの方が訪れると思うので、道案内のサインはしっかりとっていただきたいですね。



聞いてみました

# みのかも文化の森この一年。そして、これから……

みのかも文化の森も、昨年10月にオープンしてから1年。  
渡辺教育部長に、文化の森の活動状況について広報モニターの野田さんがインタビューしました。



インタビューー  
野田 しのぶさん(新池町)  
平成13年度広報モニター。3児の母親として、忙しい毎日を通しながら活躍中。

予想を上回る12万人もの来館者がありました

野田 はじめまして、野田です。みのかも文化の森は、子どもを連れてよく来ており、今日は、いろいろ聞かせてください。

まず、オープンから1年が経過したわけですが、利用状況は、どれくらいなのでしょう。

渡辺 企画展まで含めた来館者数は、9月までで約12万人あり、特に小中学生の学習利用は、1カ月平均約1千人となっています。これは、「総

合的な学習時間」を先取りして、市内の小中学生が地域で学ぶ時間をここで活用するよう工夫したからです。いずれにせよ、この来館者数は、私たちの予想をはるかに上回りました。

来館者は、北は北海道から南は広島県まで広範囲にわたっています。地方自治体からの見学者が5千人を超えています。

これは、この施設が博物館と美術館、それに教育センターがいつしよになっているという、全国的にもユニークな複合施設だからではないかと思えます。

展示室には約6万人の入場者がありました。主な企画展として、昨年度は、「オープン記念の「芸術と自然展」、岡本一平と太郎親子の「親子の対話」岡本一平・岡本太郎展」それに親子

連れでにぎわった「高畠純展」など、今年度は、古

井町の故高橋余一さんの「時代の世相」を描いた「生活絵巻に見る高橋余一のまなざし展」、夏休みは多くのお子さんでにぎわった「クワガタ・カブトムシ見つけた！展」など本当に多くの人に、見ていただきました。

野田 私も、この夏休みに子どもをつれて、「クワガタ・カブトムシ見つけた！展」を見に来ました。

この前も、5年生の子どもが、「米作り体験」の一貫として生活体験館で、ご飯を食べさせていただき、感激していました。

渡辺 大きな釜を使い、マキで炊くご飯は格別おいしくすからね。オコゲができるけど、これがまたおいしいんですよ。

体験型の講座の充実と市民ボランティア

野田 いま、文化の森が力を入れてる点はなんですか。

渡辺 文化の森の人気のひとつに、体験型講座の企画があります。

生活体験館で、オープン当初から開催している四季を食べる講座などです。この予約なしでも参加できる「自由参加型」の講座(注：開催当日受け付け)をさらに充実する



ことにより、多くの市民の皆さんに参加していただきたいと思っています。

野田 そうですね。予約が要らないのは、魅力ですね。例えば、今日、少し時間があいたと思ったとき、ここで講座に参加できますね。

渡辺 また、市民参加という点では、ボランティア活動にもどんどん参加していただきたいですね。

昨年130人ほどの市民の皆さんが、「学習支援ボランティア」など5分野にボランティアとして登録していただき、大活躍していただいています。

このボランティアの皆さんがいなければ、ここまで運営が成功しなかったと思います。こうした、市民の力を活かすことも活用していきたいですね。

野田 最近の子どもたちは、

市民参加型の企画をもっと増やしたい

野田 これからの文化の森の目標を聞かせてください。

渡辺 まずは、市民の皆さんが、楽しく学び遊んでいただける場所にする事です。そのために、広大な森という自然環境とミュージアムを十分に活用していただけるような工夫をしていきたいです。例えば、陶芸や草木染、竹工芸、機織りなど参加型の企画をもっと増やしていきたいと思っております。



渡辺 教育部長  
平成12年度より教育部長。  
文化の森建設からたずさわる。



気軽に「いつでも だれでも なんでも」

## 教育センター

みのかも文化の森は、市民ミュージアムのほかに教育センターを併設しています。教育センターでは、教育関係の資料収集・保存のほかに教育に関する研修・講座も開講しています。また、さまざまな教育に関する相談を受け付けています。教育や子育てでお悩みの方は、ご相談ください。

### 教育・子育て相談

日時… 毎日  
場所… みのかも文化の森2F 教育センター  
内容… 学校・家庭・社会への不応、不登校など。性格・行動について。その他。  
\*相談は年末年始は除きます。  
\*土・日曜日は、午後4時までです。

### 研修・講座

教職員の資質の向上を目的に各種の研修会や講座を開講しています。なかには、一般市民を対象にした講座も企画しており、9月に行いました「お月見コンサート」は、県外からも多数ご来場いただきました。



### あじさい教室



あじさい教室のデイキャンプ

学校に行きたいと思っても、何らかの要因で登校が困難な児童生徒さんの教室です。

日時… 月・火・木・金曜日  
午前9時～午後4時  
場所… みのかも文化の森2F 教育センター  
内容… 自分で決めた日課表で、1日過ごします。

### あじさい親の会

不登校児童生徒の親の会です。  
日時… 毎月第2水曜日の午前  
場所… みのかも文化の森2F 教育センター  
内容… 語ろう聞こう交流会の開催。同じ悩みを持つ保護者の皆さんが、助言者を交えて話し合う会です。

相談・問い合わせは、教育センターへ  
電話 25・3999(直通) / ファックス 28・3255